

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201536		
法人名	有限会社 ポールハールト		
事業所名	グループホーム ハールト		
所在地	青森県弘前市大字中崎字苧田260番地-2		
自己評価作成日	令和5年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1ユニットという利点を活かし、家庭的な雰囲気の中で、自由で安心した生活が送れるように支援している。 毎月のカンファレンス会議では、日々変わる利用者様の状況に合わせ、個々に対応した介護・統一した介護を目指している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「あなたの来た道大切に、これから行く道一緒に」という文言と共に、それを具体的にどのように支援させていただくか、取り組み姿勢も含めた理念を作成しており、全ての職員は理念に込められた意味をよく理解し、常に理念に沿ったケアができるように取り組んでいる。 ホームでは週1回訪問看護師が来所して利用者の健康管理を行い、状態変化の早期発見・早期対応に努めている他、理学療法士の資格を持った計画作成担当者がおり、日常生活動作の低下を防止して、自分らしく活動的な生活を送ることができるよう、機能訓練にも力を入れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私達なら「こうありたい」「こうしてほしい」という思いや意見を全職員で話し合い、新しい理念を掲げ、実践につなげるように努めている。また、理念を忘れないように携帯している。	地域密着型サービスの役割を反映させたホーム独自の理念があり、玄関や事務室等に掲示している他、職員の名札の裏に印刷して常時携帯し、いつでも見ることができるようにしている。職員は理念に込められた思いを理解し、理念に沿ったケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方々をホームの敬老会に招待したり、ホームの避難訓練にも参加していただく等、交流はコロナでできなくなっていたが、地域の側溝の掃除や運営推進会議等、できる事から交流を再開している。	町内会の回覧板を通して地域の情報を得ている他、町内会長からも都度様々な情報提供がある。毎年、近隣小学校の児童が手作り作品を持ってホームを訪れ、学習発表会にも招待されている。また、地域住民がホーム敷地内の草刈りをしてくれたり、玄関前の雪かきを手伝ってくれる等、良好な関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方々への理解や支援の方法を知っていただくため、運営推進会議にて、利用者様の日頃の様子や介護事故、ヒヤリハット、事故防止対策に関して報告をしており、地域から意見や助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、町会長様をはじめ、婦人部の方々と地域包括支援センターの方に参加していただき、自己評価及び外部評価結果、目標達成計画についての報告と説明を行い、意見や助言をいただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、今年8月からは対面での会議を行っている。会議ではホームから利用者の生活状況や取り組み等を報告し、メンバーから様々な情報や意見をいただきながら、業務に活かすように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症の方々への理解や支援の方法を知っていただくために、運営推進会議にて利用者様の日頃の様子や介護事故、ヒヤリハット、事故防止対策に関して報告をしており、意見や助言をいただいている。	市の担当課には運営推進会議の議事録や自己評価及び外部評価結果を提出している他、メール等で様々な情報をいただいている。また、毎月、ホームの空き状況を市に報告している他、書類提出等のために役所に足を運び、日頃から連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ対策として、身体拘束廃止に関する指針を作成し、3ヶ月に1度は身体拘束や事故防止委員会を開催して、全職員での話し合いを設けている。また、内部研修や外部研修において、職員の勉強会も行っている。	指針とマニュアルを作成し、定期的にチューブを利用して内部研修を行っている他、3ヶ月に1回委員会を開催して、ホームの現状確認等を行っている。管理者及び職員は身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでおり、夜間以外は玄関を施錠せず、町内会長を通して地域住民に、いざという時の協力を呼びかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、内部研修において勉強会を行っている。また、接遇に関する勉強会も行っており、職員は言葉遣いに注意して、日々のケアにおいて虐待が行われないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度や権利擁護について理解を深めるため、年に1回、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には、事業者の取り組みや方針について、わかりやすい言葉で説明している。また、わからない事や不安に感じた時には、いつでも職員に聞いてくださるように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や、コロナで面会も減ったが面会に来られたご家族様が、いつでも意見や要望、苦情等を出しやすいよう、ホームの玄関先に投書箱を設けている。	利用者との信頼関係を大切に、日々の会話から、意見や要望を聞けるように取り組んでいる。また、家族には毎月担当職員からの手紙で近況を報告している他、状況に変化があった時は随時電話で報告し、面会時にも意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の研修時に、職員の要望や意見を聞いている。また、年1回、全職員に自己評価を記入してもらい、個別の面談を行って、相談事や要望を伺っている。	職員は毎月の職員会議で意見を出せる他、業務の合い間にも管理者に話をしたり、職員同士で意見交換することができ、メールやラインでの情報交換も行っている。ホームでは半年に1回、全職員が自己評価を記入し、それを基に管理者や代表者との個別面談を行っており、職員一人ひとりが自分に合った働き方ができる環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に目標を持ち、達成するための努力する姿勢を上司は見守り、助言をしている。また、面談の際に、職員の思いや希望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は評価や面談を通して、職員一人ひとりに助言やアドバイスをを行っている。また、できる限り外部の研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流が減ったため、復活させたいと思っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居から一定の間、日々の記録をこまめに行い、職員間で情報を共有するようにしている。会話や表情を観察し、不安に感じている事や生活への要望を見出し、安心できる対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に自宅を訪問し、ご家族様やご本人の生活への意向をお聞きしている。また、生活環境の確認も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ができる事、支援が必要な事等、ご家族様の意向を踏まえた当面の計画書を作成し、1ヶ月はインフォーマルサービスを含めたプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる範囲で、職員と共に家事や軽作業を行う機会を設け、一つ屋根の下で暮らす家族としての関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の様子をお伝えしている他、ハールト新聞でも生活状況をお知らせしている。ご家族様には、まず心の拠り所はご家族様であり、入居しても一緒に外出する機会を作っていただけるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や面会に来られたご友人の方々には、いつでも気軽にホームに来ていただけるよう、声をかけしている。また、長年生活してきた地域へ外出する機会も設けている。	コロナ禍でも馴染みの関係を継続できるよう、オンライン面会にも対応していたが、現在は感染状況に配慮しつつ、ホールのソファコーナーで家族や友人の面会を受け入れている。また、何年も前からホームを訪れている床屋とは馴染みの関係を構築している他、行きつけの床屋を利用したいとの希望があった時は、個別に対応することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴等を考慮して、席順を配置したり、時に職員は共通の話題を提供・介入をして、利用者様同士の関係が円滑に保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もご家族様からの相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日、利用者様とコミュニケーションを図り、思いや意向を把握するように努めている。また、上手く思いを表現できない方には、日頃の表情や行動から把握するようにしている。	職員は日々の関わりを通して、利用者の思いや意向を把握するように努めている。また、把握が難しい場合は表情や言動から察したり、対応する職員を代えてみる等し、必要に応じて家族からも情報収集しながら、全職員で意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ずご自宅を訪問し、これまでの生活環境や好きな事、生活歴をご本人やご家族様より聞き取りしたり、それまで利用していたサービス事業所より情報をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活習慣やできる事を把握し、心身状態に合わせ、ご本人らしい生活を提供できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議において、それぞれの利用者様について情報を共有したり、課題を検討し、状態に合ったプラン作成に努めている。	毎月担当職員がカンファレンスシートに意見や気づきを記入し、家族は勿論、必要に応じて訪問看護師や理学療法士の意見も取り入れて、個々の状態に合った介護計画を作成している。介護計画は6ヶ月の期間を設定し、毎月モニタリングと評価を行っている他、状態変化等が見られて必要な時は、期間内でも随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はわかりやすく記載するように心がけ、全職員が情報共有しやすいようにしている。また、ケアチェック表にはプランに沿った特記をもらい、見直しに用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの雰囲気や季節感等、時期に合わせた行事を大切にしている。また、写真を掲載したり、DVDを作成して共に鑑賞することで、楽しい思い出話ができ、より穏やかな生活を送れるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、地域の方々に行事の情報をいただき、利用者様が参加して一緒に楽しめる機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期及び必要時には、かかりつけ医への受診支援を行っている他、時にはご家族様にも協力していただいている。訪問診療時や訪問看護時には、日頃の様子や変化を報告している。	月2回の協力医療機関の訪問診療を利用できる他、それ以外の通院を希望する場合もホームで対応している。定期受診で変化がない時は毎月の手紙で報告し、変化があった時は随時電話で報告をしている。また、週1回、訪問看護師による健康管理も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時には、利用者様の日頃の様子や訪問診療時の医師からの指示を報告し、情報を共有して連携している。また、緊急時には24時間体制で訪問看護へ連絡を入れ、指示を仰いだり、訪問していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療連携室に利用者様の情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りの指針を作成し、ご家族様へも説明して、同意を得ている。終末期の対応については、利用者様やご家族様の望む生活支援を掲げ、ご本人の気持ちを大切にしながら、医療・看護・介護・ご家族様との協働で取り組むこととしている。	継続的な医療行為が必要になった場合は、病院や他施設への住み替えが必要になるが、それ以外は希望に応じてホームでの看取り介護が可能であり、入居時にホームの方針を利用者や家族に説明している。また、利用者の状態に変化があれば、随時医師を含めて家族と話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に落ち着いて実践できるよう、救命救急講習へ定期的に参加している。また、急変時の連絡体制を整備し、掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、うち1回は地域の方々に参加・協力をしていただいている。自然災害時の情報把握、判断の確認、誘導訓練も行っている。	夜間想定も含め、年2回避難訓練を行っており、町内会長を通して、地域住民にも災害時の協力をお願いしている。また、災害発生時に備えて、レトルトご飯や缶詰、カップ麺、飲料水、卓上コンロや小型発電機等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉遣いや声がけについては、研修時に勉強する機会を設け、普段から気をつけて対応している。プライバシーに関しては、トイレにはカーテン、自室には希望により暖簾をかけている。	年間の研修計画に、接遇やプライバシー・個人情報取り扱い等も組み入れ、職員が日々のケアを振り返り、勉強できる機会を設けている。また、利用者の尊厳や羞恥心に配慮した言葉遣いや対応を心がけ、馴れ合いにならないよう、職員同士がお互いに注意し合いながら業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り利用者様が選択しやすいよう、声をかけている。また、上手く言葉にできない方には表情や行動を読み取り、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の気分や体調に合わせてながら、思いに耳を傾けている。無理強いはできないが、声をかけ、レクリエーション活動や家事参加へのお誘いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寄り添い、声をかけながら、できる限り自分で四季や好みに合った洋服を選んでいただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食事は、ご本人の状態や好みに合わせた形で提供している。行事や誕生日にはケーキを一緒に手作りし、楽しんでもらっている。また、無理強いはできないが、食後の食器拭きは利用者様全員に声をかけ、手伝っていただいている。	お正月や誕生日には利用者が食べたい物を聞いて献立に追加したり、ホームで収穫したものや近隣住民からいただいたものもメニューに取り入れ、食事からも季節を感じられるようにしている。また、利用者個々の意向に応じて、食器拭き等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームでは、栄養士がバランスのとれた食事を提供している。食事や水分摂取量に関しても、毎食時にチェックをして、健康管理に努めている。水分量の少ない方にはこまめに声をかけ、脱水や感染症にならないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、清潔保持ができるように声をかけている。また、介助が必要な方には見守りや促しをして、できない所は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、定期的にトイレに誘導することで失敗を減らし、自信につながるように支援している。また、急がせるような声かけは絶対にしないよう、気をつけている。	排泄チェック表に一人ひとりの排泄状況を時間毎に記録し、個々のパターンに合わせて声かけをしながら、できるだけ失敗なくトイレで排泄できるように支援している。毎月の職員会議でも排泄用品や介助方法の変更の必要性を話し合い、利用者個々の状態に合った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、できる限りレクリエーション活動や体操の声かけを行い、身体を動かしていただけるようにしている。また、頑固な便秘の方には、水分をできるだけ摂取していただく、乳酸菌を含んだ食品を摂っていただいている。医師や訪問看護師と連携を図り、下剤で調整することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴時には、共に好みの歌を歌ったり、会話をし、楽しく入浴していただけるように心がけている。また、コミュニケーションを図りながら、体調面の観察も行っている。	日曜日以外は毎日入浴可能で、個々の好みやペースに合わせた入浴支援を行っている。体調や気分を見ながら声かけし、拒否が強い時は翌日にする等、柔軟に対応しながら、一人週2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間なかなか寝付けない利用者様に関しては、できる限り本人の話を傾聴し、寄り添っている。自室の灯を調整したり、安楽な体位で眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に薬を服用していただく際は、目視にて名前や日付を確認し、職員で声をかけ合い、誤薬防止に努めている。また、新しく処方されたり、変更があった時には全職員が情報を共有できるよう、専用のノートに詳しく記載している。また、申し送り時にも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食時前の挨拶や家事参加(食器拭き)等、個々に応じた役割を持っている。また、天気が良くて暖かい日には、ホームの外でティータイムをし、気分転換をしたり、簡単なレクリエーション活動をして楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで以前より減ったが、利用者様の希望をお聞きして、できる限り外出する機会を設けている。職員付き添いのもと、自分の好みの物を購入して食べ、楽しい時間を過ごしていただいている。	気分転換のため、天気の良い日に周囲の景色を見ながら敷地内を散歩したり、すぐ隣りにある自動販売機に飲み物を買に行く等、できる限り戸外に出る機会を設けている。また、公園でお弁当を食べながら花見をしたり、紅葉狩り等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身が金銭を管理して所持することが望ましいが、自己管理が困難な方に関しては、ホームで管理をさせていただいている。遠足や外出時の買い物では、好みの物を自分で選んでもらい、職員と一緒に購入することで、買い物気分を味わっていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より手紙や電話の希望がある時には、お手伝いをさせていただいている。難聴や意思疎通が困難な方には、職員が間に入って支援している。また、ご自分の携帯電話を持っている方で操作方法を忘れた時にも、お手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるよう、季節感のある食事を提供したり、お花を飾る等している。また、ホーム内の壁に、外出時の写真や塗り絵等の作品を飾っている。外出時の様子をおさめたDVDを作成し、ご家族様が面会に来られた際にソファで見てもらい、一緒に楽しんでいただけるようにしている。	ホールには面会時等に利用するソファコーナーの他、輪になってレクリエーションを楽しむように配置されたソファもあり、小上がりのスペースも広く、ゆとりが感じられる。小上がりにある窓からは周辺の景色を見渡し、四季の移り変わりを味わうことができる他、ホーム内には季節に合わせた飾り付けもなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルには個々の座席を設けており、テレビの前のソファや玄関前のベンチ、小上がり等もあり、利用者様が思い思いに、好きな場所で過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みの家具を持参していただいたり、ご家族様の写真をお部屋に飾る等して、利用者様に安心して過ごしていただけるように支援している。	入居時に使い慣れた物の持参をお願いしており、タンスやテレビ、椅子等を持ち込み、家に居た時のような環境作りをお手伝いしている。持ち込みが少ない場合は個々の身体状況に配慮しながら、自分らしく穏やかな生活ができるよう、居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・トイレ・浴室には手すりが取り付けられてあり、散歩される方には、安全に運動できるスペースとなっている。また、玄関にはスロープを設けており、シルバーカーや車椅子の方が自由に移動できるようにしている。		